

ハナヤサイサンゴ *Pocillopora damicornis*



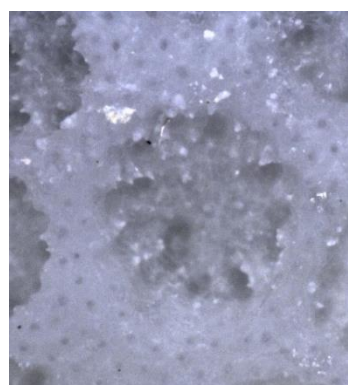
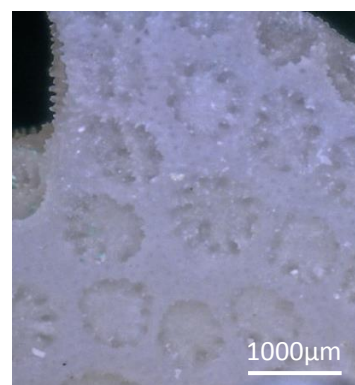
生きているときの特徴

群体中心から短い枝が放射状に伸びるコリンボース状の群体になる。枝の形状に規則性はないが、群体の形状が半球形になることが多い。枝の表面は平坦で、ポリプは昼間でも伸びている。

- ・褐色系になるが、濃さは群体によりことなる。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

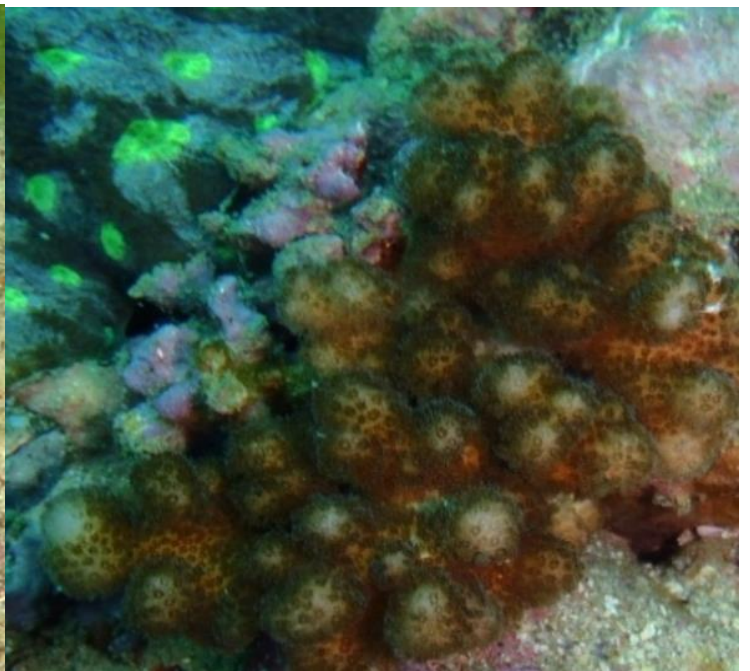
枝の表面はなめらかで、先端は丸みを帯びている。莢は突出せず、ポリプのみが突出している。



骨格の特徴

個体の形状はほぼ全てが円形になる。個体は群体表面から突出せず、全てが埋没している。隔壁は次数による長さや形状の変化が少なく、あまり発達しない。目視では確認できないが、共骨上には多数の孔が散在しており、莢の周縁部には極小のトゲが多数は位置している。

ハナヤサイサンゴのバリエーション



キクメハナガササンゴ *Goniopora djibtiensis*



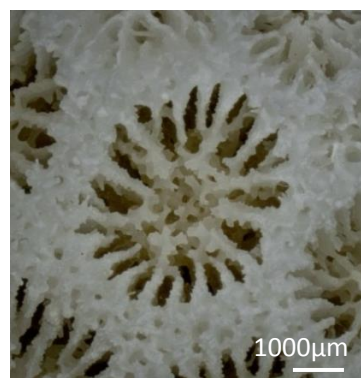
生きているときの特徴

被覆状もしくは半球形の塊状の群体になる。ポリプの触手の先端と口盤が白色である。昼間でもポリプは長さは他の*Goniopora*に比べるとかなり長く伸びている。口部の盛り上がり大きい。

- ・ポリプは透明がかった橙色、口盤は白色。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

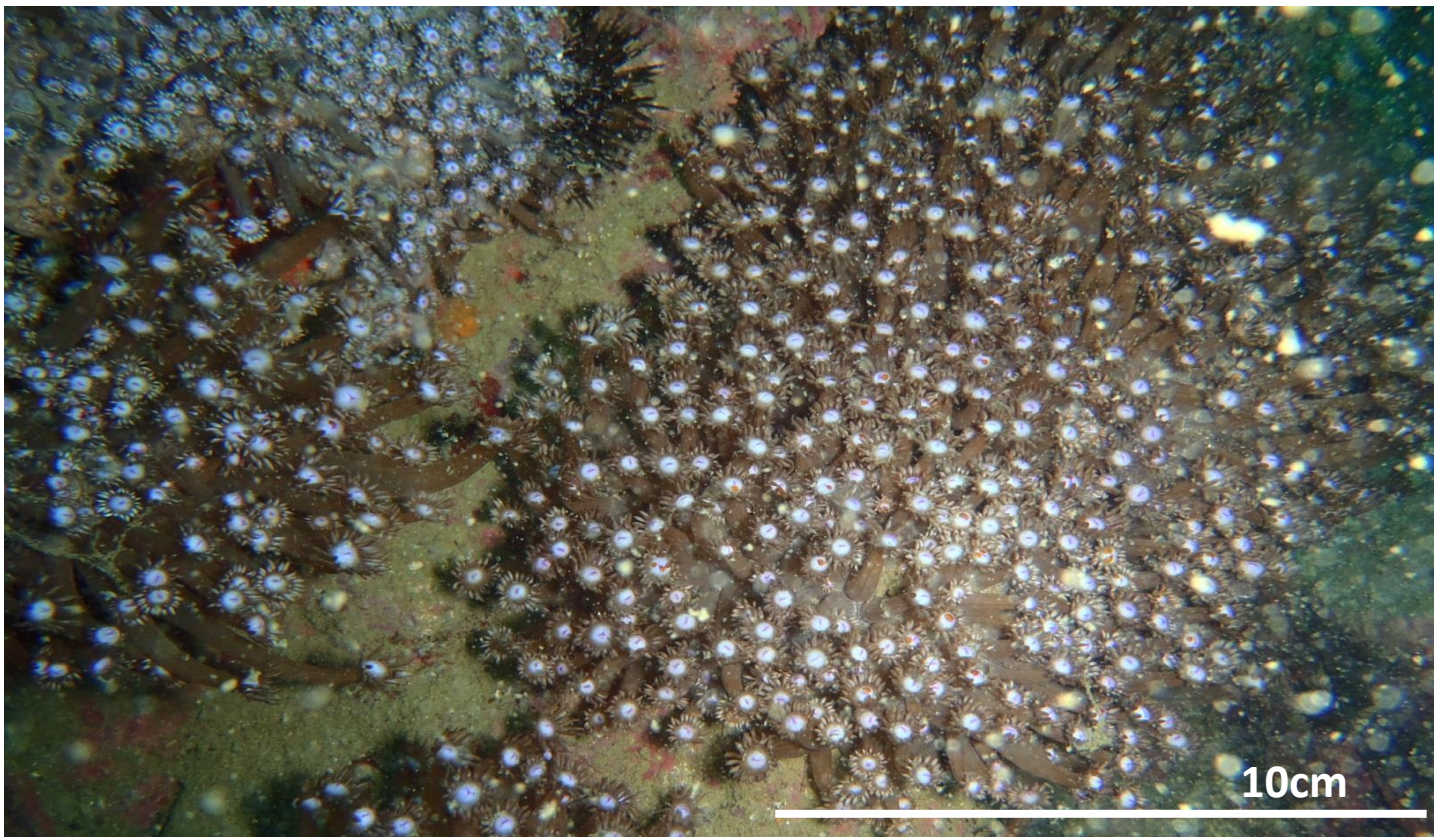
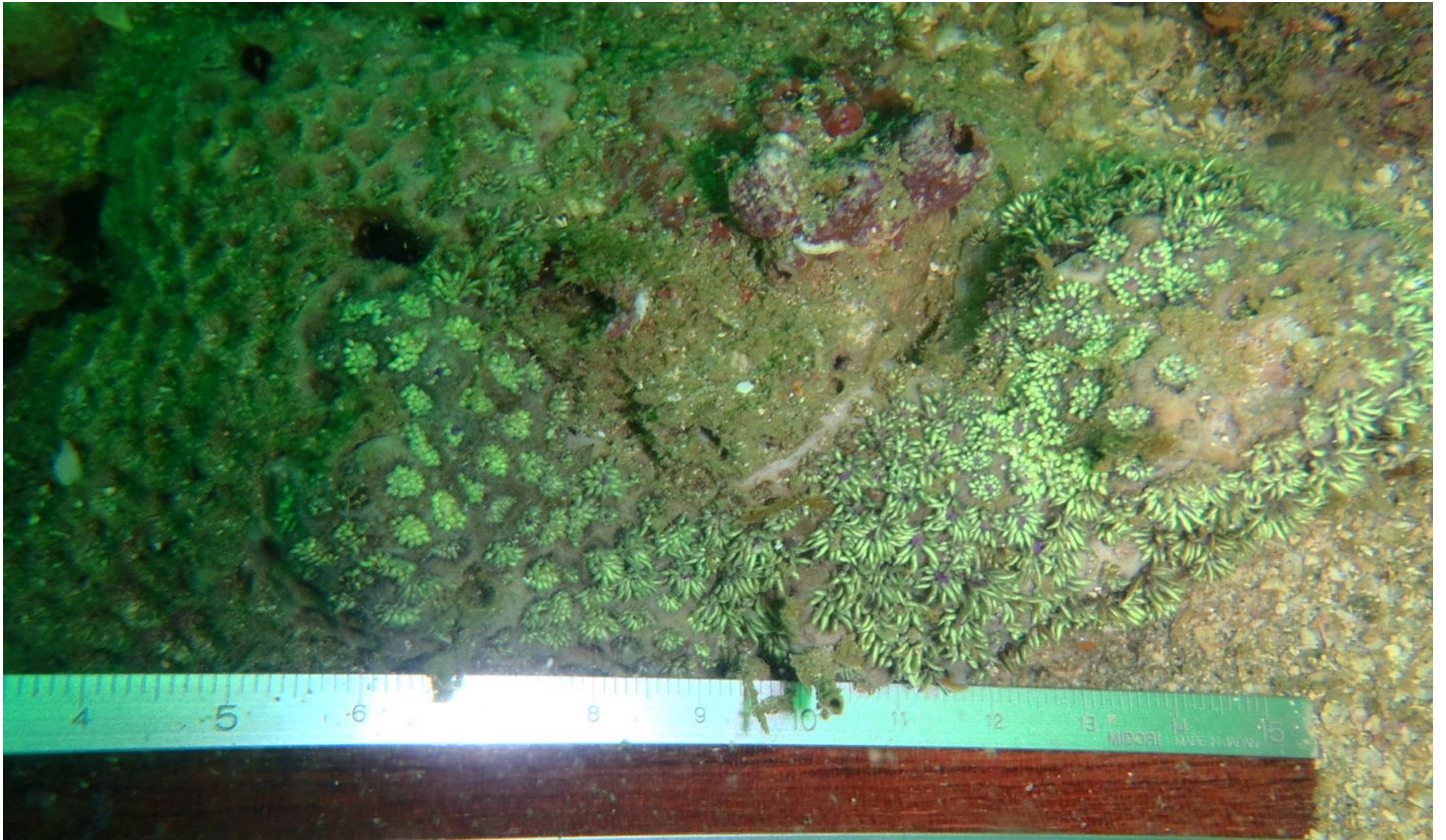
ポリプの胴の部分の伸びが非常に長い。触手も細く長く伸びる。



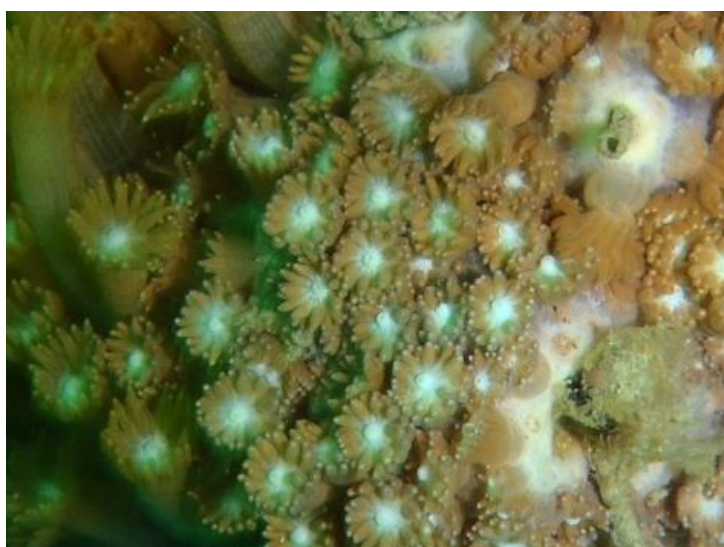
骨格の特徴

サンゴ個体は大きいものほど円形状になり、小さいものは多角形になることが多い。サンゴ個体は個々で完全に独立している。大きいサンゴ個体間には小さなサンゴ個体が隙間を埋めている。隔壁は基本的に24枚であり、多くの隔壁は真直ぐに軸柱に向かう。莖は比較的深く3mm前後である。莖には穴がほとんど見られない。

キクメハナガササンゴのバリエーション



ハナガササンゴ *Goniopora lobata*



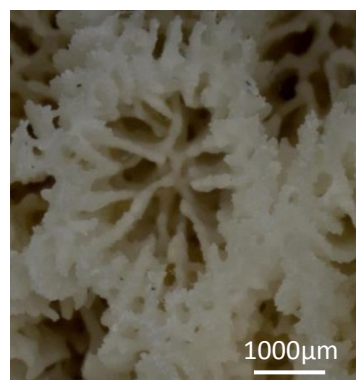
生きているときの特徴

被覆状および準塊状の群体である。ポリプは3～4cm程まで伸びていることが多い。ポリプの太さは5mm前後で、非常に柔らかい。触手は、ポリプが伸びているときは細く長い。縮んでいるときは太く短くなる。

- ・ポリプの色は橙色で、口盤が白色になる。
- ・生息場所は水深3m～10m。

ここに注目！

触手は*G. djibtiensis*に比べて若干太めで、短い。口の盛り上がりが小さめである。



骨格の特徴

サンゴ個体は角張った個体が多く、個体の形状は統一されていない。サンゴ個体は個々で独立している。莖壁は歪みがあり、多数の穴が空いていることが確認できる。隔壁は基本的に24枚になるが、大きさは大小様々である。大きな隔壁は軸柱に落ち込むように延びる。軸柱はあまり発達していない。

ベルベットサンゴ *Psammocora albopicta*



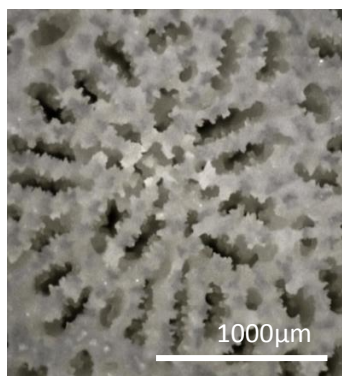
生きているときの特徴

群体は被覆状の群体であり、群体の表面には大きさが様々な盛あがりがある。また、莖が不明瞭であり、サンゴ個体の凹凸がほぼ無いため、群体の表面はなめらかである。しかし、サンゴ個体やポリプどうしが連続することは無い。

- ・色は褐色や緑色、藍色が多い。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

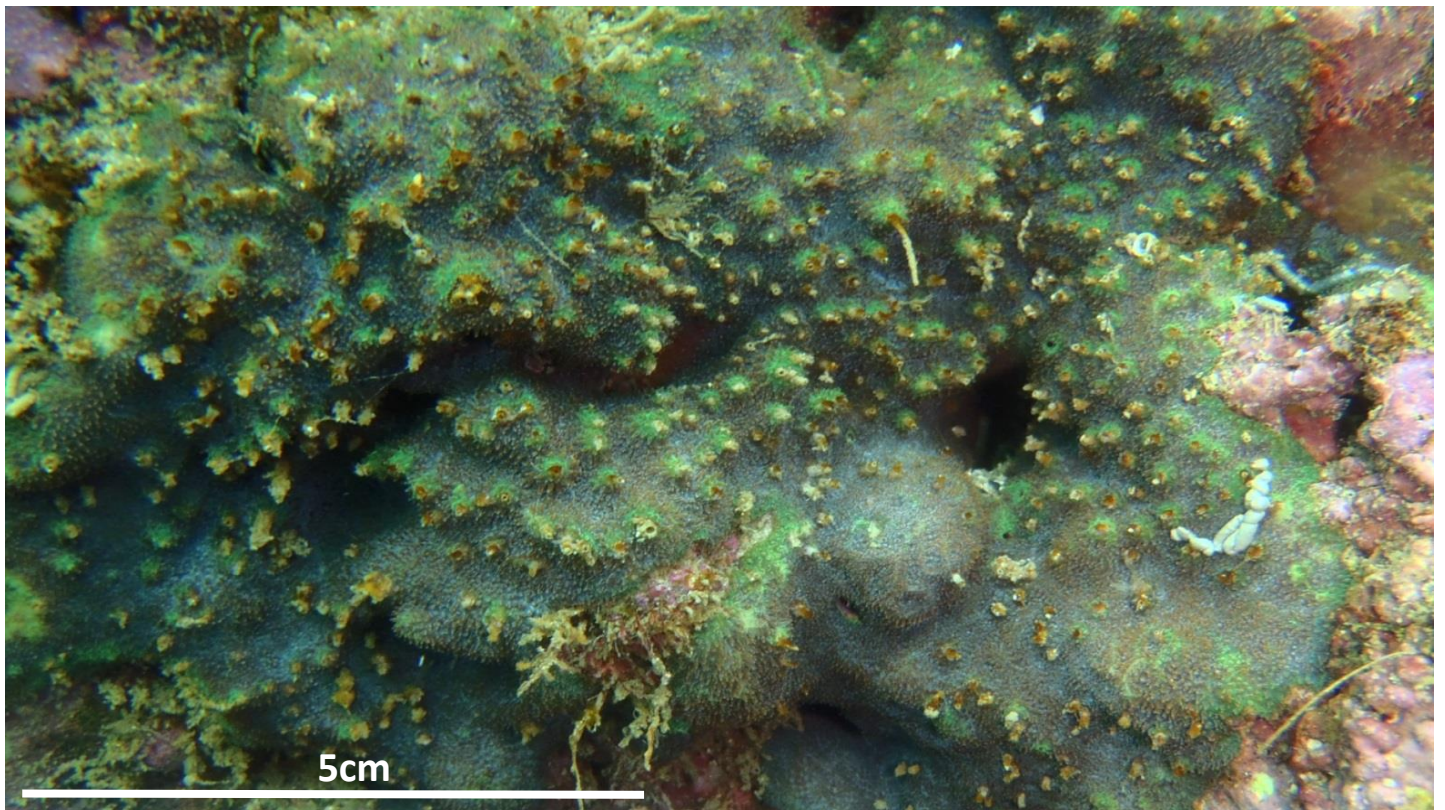
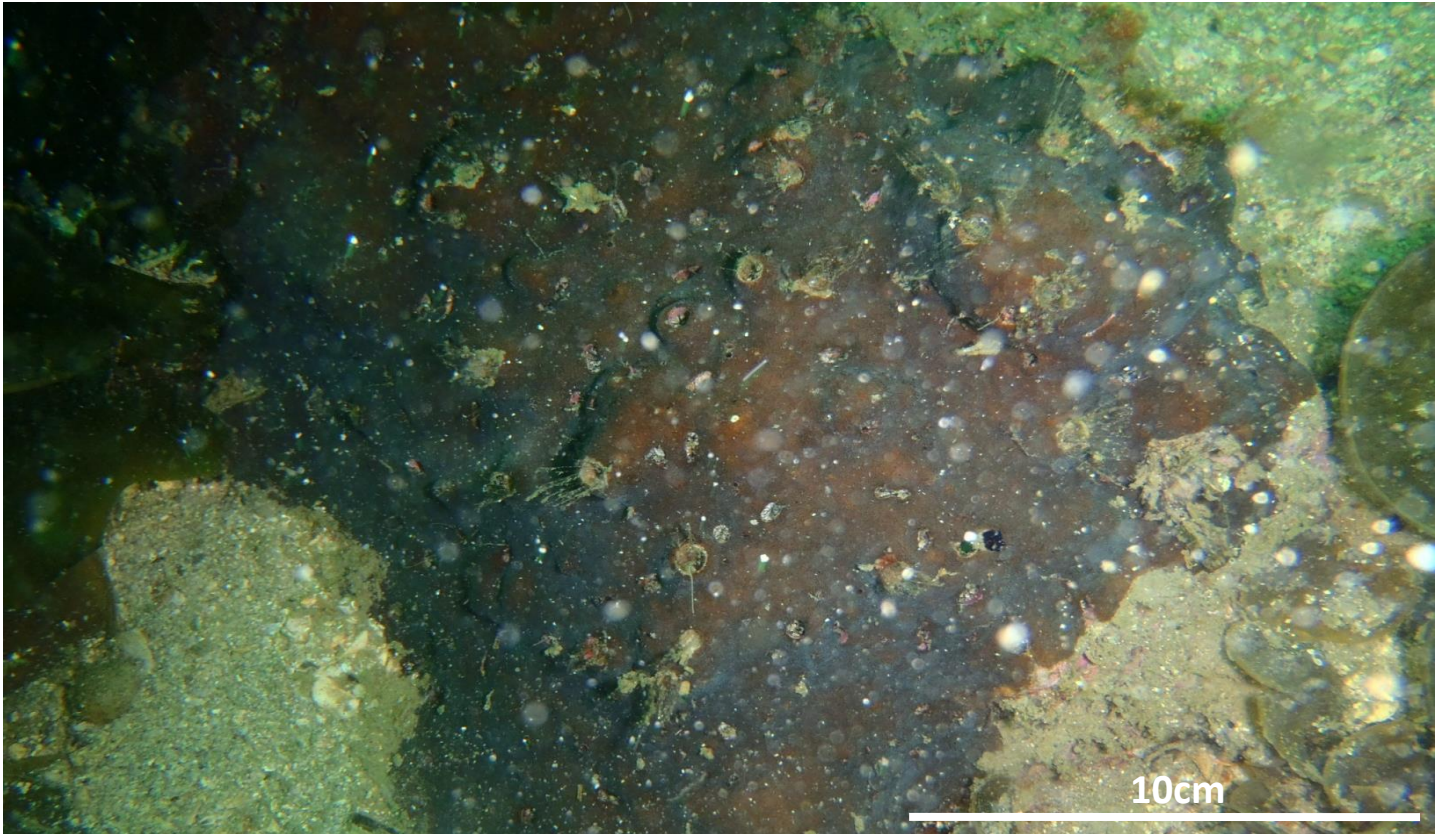
群体の表面はなだらかであり、不規則な盛り上がりが多い。



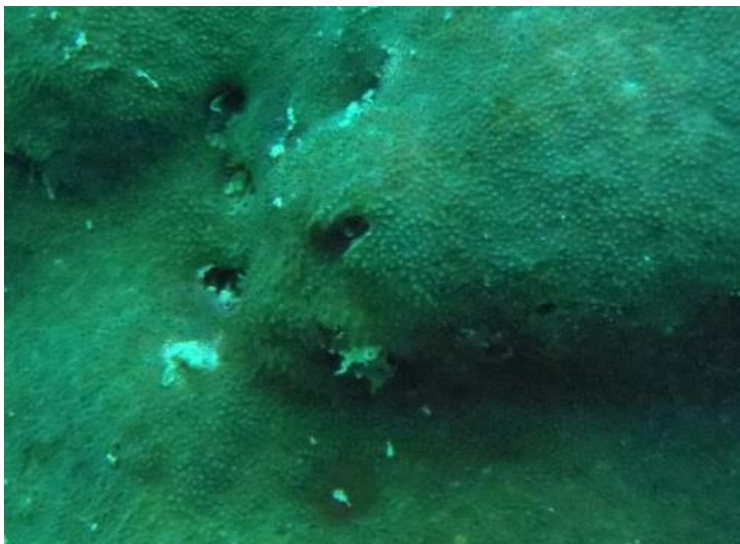
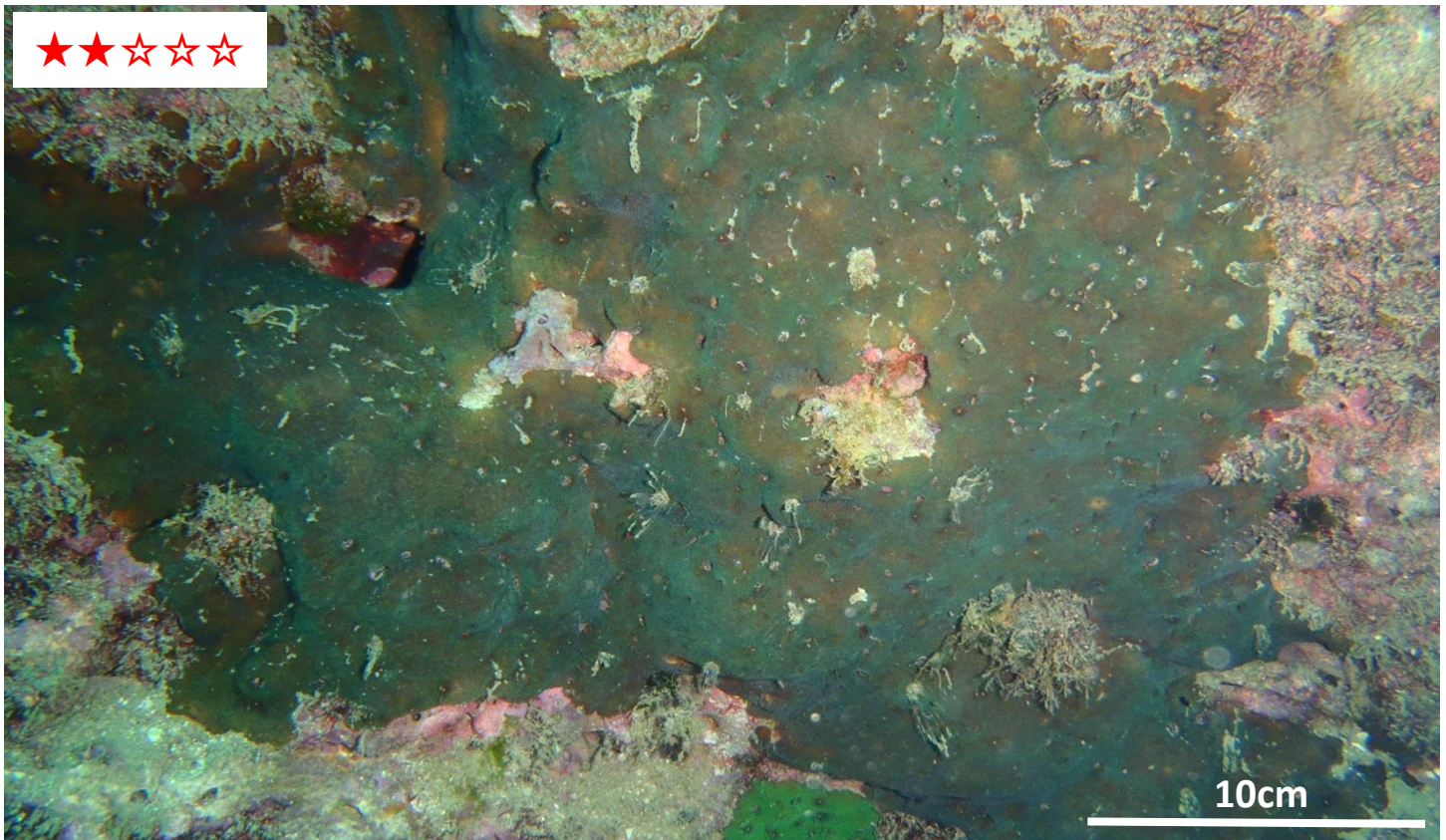
骨格の特徴

莖壁は不明瞭であり、隔壁や肋が結合しているため、群体の表面には無数の穴が空いている。そのため、サンゴ個体の中心は非常に確認し難いが、サンゴ個体の中心には骨格の色よりも更に白い色をした軸柱が存在する。それにより、サンゴ個体の大きさは1.5mm～2mm程度であると思われる。サンゴ個体の中心から規則的に放射状に隔壁や肋が伸びている。

ベルベットサンゴのバリエーション



ヒダアミメサンゴ *Psammocora nierstraszi*



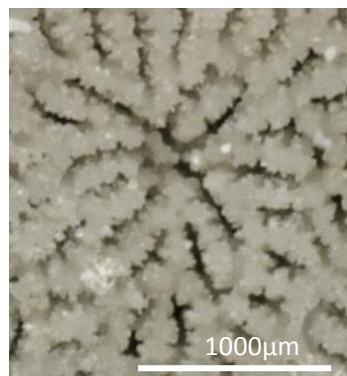
生きているときの特徴

被覆状の群体であり、生態時には莢壁が確認し難いためサンゴ個体は不明瞭である。また、肉眼ではポリプの確認も非常に困難である。群体の表面は若干のうねりがあるが、非常になだらかであり、凹凸がほとんどない。

- ・全体的に濃い緑色になる。
- ・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目！

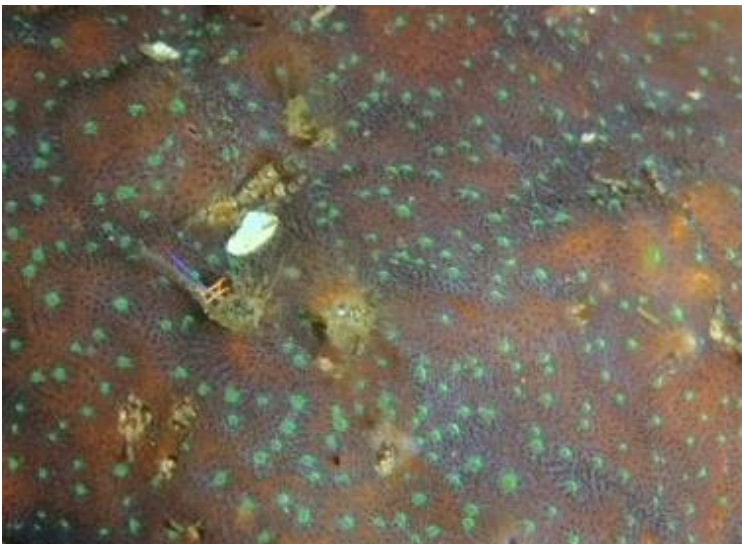
群体表面は非常になだらかであり、コブ状の盛り上がりが少ない。



骨格の特徴

莢壁が不明瞭のため、サンゴ個体の形状の確認は非常に難しい。サンゴ個体は大きさが1mm～1.5mm程度で、不規則に配列している。同属である *Psammocora alboopicta* に比べると、サンゴ個体の大きさはわずかに小さい。群体の表面は非常になだらかであり、莢壁付近の盛り上がりも見られない。サンゴ個体の骨格の様子がタコノマクラの様様に似ているように見える。

アミメサンゴ *Psammocora profundacella*



生きているときの特徴

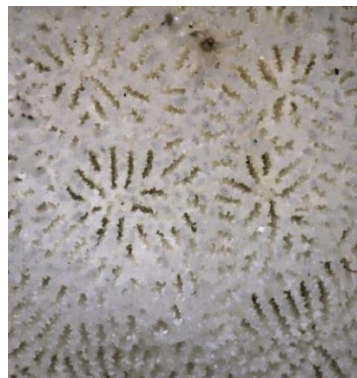
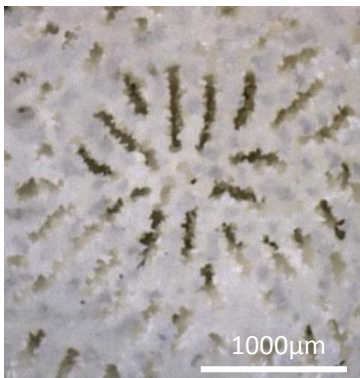
被覆状および準塊状の群体になる。生態時には莖壁が確認しにくい、ポリプの口と群体全体の色が異なることが多いため、サンゴ個体の確認がしやすい。群体表面にはウネリがあり、滑らかである。円錐形の小さな丘状の突出が全体に散在する。

・橙色～薄紫色

・生息場所は水深5m～15m。

ここに注目!

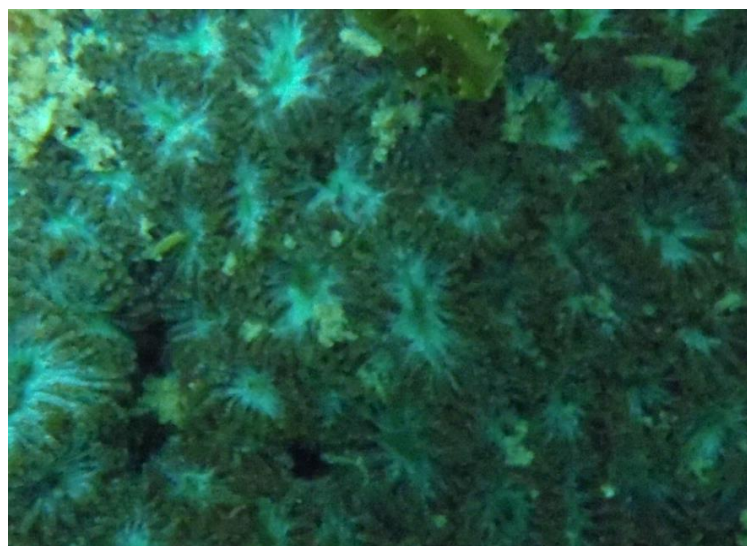
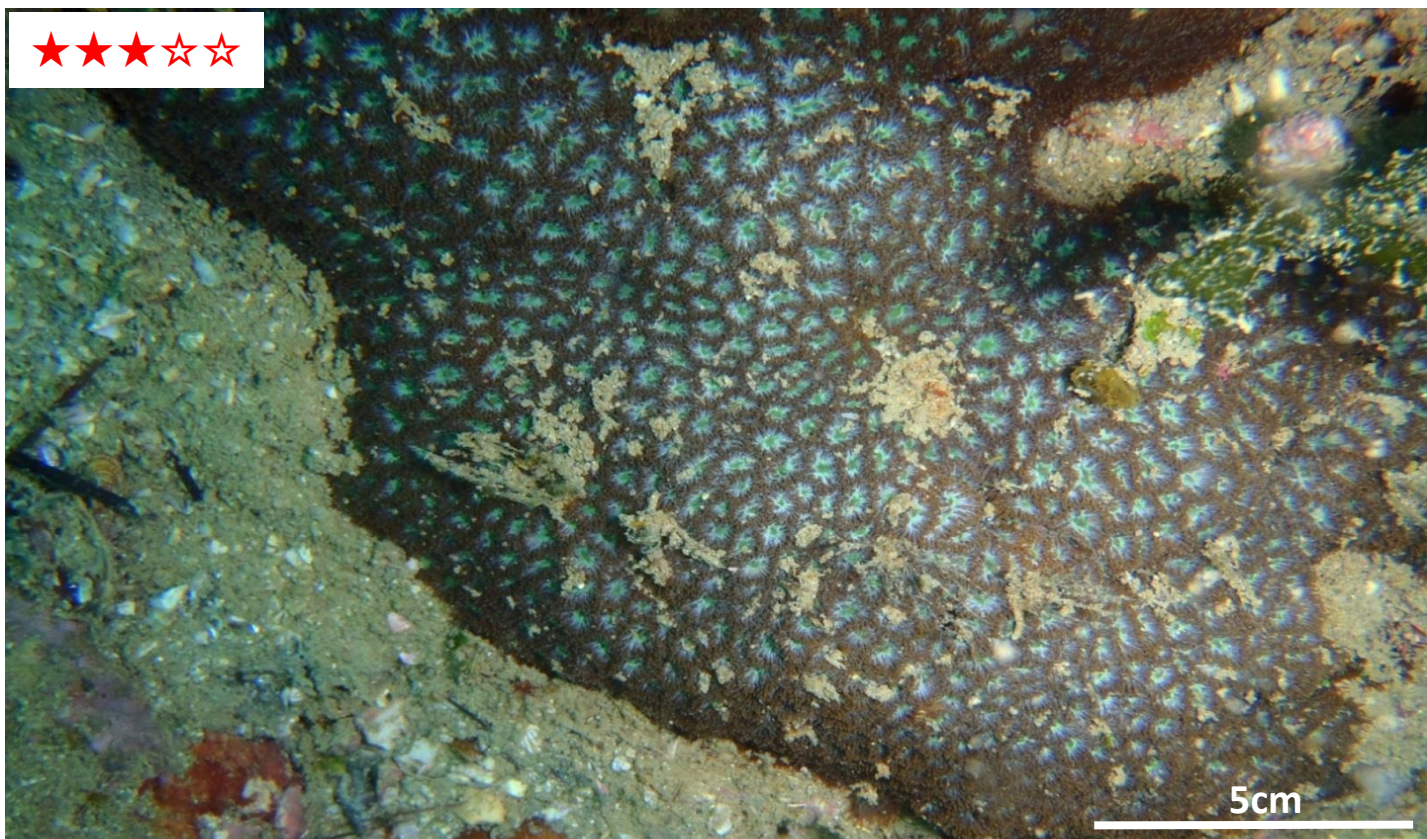
群体表面から円錐状の盛り上がりを形成する。色の違いによりサンゴ個体が確認しやすい。



骨格の特徴

サンゴ個体の形状は多角形のように思われるが。肉眼での確認は困難を極める。サンゴ個体の大きさが1mm～2mm程度で、不規則に配列している。群体の表面は非常になだらかである。莖の部分がわずかに盛り上がり、サンゴ個体間に小さな峰を形成することがある。

トゲルリサンゴ *Leptastrea* aff. *pruinosa*



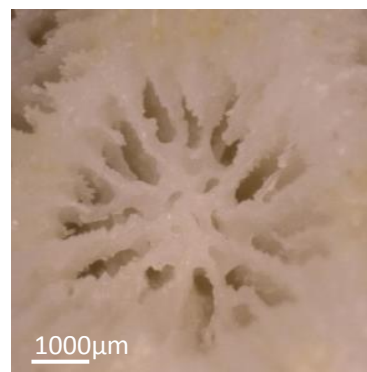
生きているときの特徴

被覆状の群体になる。サンゴ個体の形状は角張っており、多角形になる。またサンゴ個体の大きさや形に統一性はなく、大きいものから小さいものまで存在する。触手は昼間でも伸ばしている場合があるが、非常に短い。

- ・萼および共骨は茶色であり、口盤付近は水色。
- ・生息場所は水深15m～25m。

ここに注目！

昼間でも短い触手を伸ばしている。そのため、萼壁付近が盛り上がっているように見える。個体の形状は角張った多角形がほとんどである。



骨格の特徴

個体の形状は不規則な多角形である。萼の直径は5mm前後である。萼壁は1mm程で全体を通して一定である。隔壁は薄い、隔壁の枚数が多いので隔壁間が狭く感じる。個体の高さはほぼ一定であり、群表面から突出する個体は少ない。軸柱は個体の中心に小さいが存在する。

キクメイシモドキ *Oulastrea crispata*



生きているときの特徴

被覆状群体であり、群体の大きさが10cmを超えることは少ない。サンゴ個体は群体からほとんど突出しない。隔壁の色は白くなる。他のサンゴとは異なり、沈殿物が多い場所や濁った場所でも比較的よく見られる。

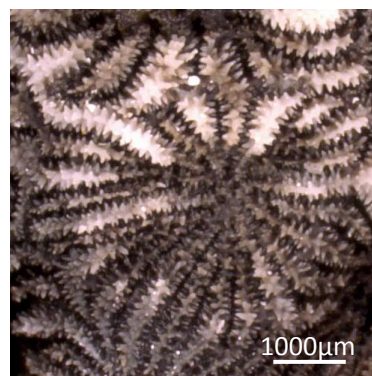
- ・褐色～暗褐色。口盤付近は淡緑色。
- ・生息場所は水深10m～30m。

ここに注目！

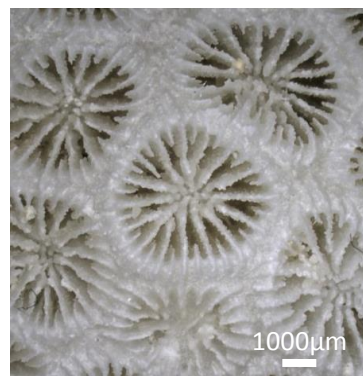
サンゴ個体は5mm前後であり、莖の突出が少ないため群体が扁平に見える。昼間でも触手を伸ばしている。

骨格の特徴

個体の形状は円形～楕円形。骨格は隔壁と肋が白色であり、その他の部分が黒色である。隔壁の側面から棘状の小さな突起が多く存在する。隔壁・肋は緩やかに傾斜する。軸柱は小さく確認しにくい。



コマルキクメイシ *Plesiastrea versipora*



生きているときの特徴

被覆状の群体型になるが、*Astrea*や*Cyphastrea*などとは異なり、岩から少し膨らみをもつように成長する。サンゴ個体は不規則な円形であるが組織が分厚い。そのため、個体間は明瞭であるが、隙間は見られない。個体の直径は3mm~5mmほどである。

- ・全体的に淡い緑色であり、口盤とそれ以外の部分で色の違いが若干ある。
- ・生息場所は水深3m~15m。

ここに注目！

個体は不規則な円形であり、密集している。成熟した個体でも*Dipsastraea*に比べて小さい。

骨格の特徴

個体の形は角がなく、円形で統一されているが、不規則である。莢壁は少し厚みがある。一次隔壁は軸柱まで届き、二次隔壁は一次よりもわずかに短い。隔壁は斜めに落ち込まず、半分ほどで垂直に落ち込むことが多い。軸柱付近では杭状葉が発達しているため、*Goniastrea*のように個体を上方から見ると軸柱を囲むような冠が見える。